

岩手郡医報

高橋 孝先生 書



岩手郡医師会

No.93/2010年3月

目次 CONTENTS

巻頭言	岩手郡医師会 会長 及 川 忠 人	1
総会議事録	平成21年度第1回岩手郡医師会通常総会	2
	平成21年度岩手郡医師会臨時総会	8
総務会議事録		19
役員会議事録		22
各種行事報告		24
学会・研究会等報告		27
会員の入会・退会・異動等		37

表紙Photo 福寿草（ふくじゅそう）

キンポウゲ科の多年草。自生、栽培。高さ約20cm。茎は緑色で直立し、上方の葉は互生で深裂した羽状複葉。早春、新葉とともに黄色の花を開く。正月用の飾り花として用いられる。根は強心剤として薬用となる。

〔和名由来〕 諸説あり。

正月を祝う飾り花として長寿、幸福を願う「福寿」のことはつけたところから。また、黄花を黄金に、開花期の長いことを長寿にたとえたところから。

〔同義〕

朔日草（ついたちそう）、歳旦華（さいたんげ）、元日華（がんとんげ）、歳菊（としぎく）、ふくづく草、猷歳菊（けんさいぎく）、報春花（ほうしゅんか）、富士菊（ふじぎく）、雪蓮（ゆきはちす）。

〔花言〕

幸福をよぶ花

巻頭言



平成22年度も郡医師会諸活動へのご支援・ご協力を

社団法人岩手郡医師会 会長 及川 忠人

平成21年度郡医師会の諸活動にご協力いただきありがとうございました。特に新型インフルエンザへの各地域での懸命なご対応、ならびに地域医療の確保にご尽力いただき心から感謝申し上げます。

平成22年2010年は寅年であります、丁度60年前の寅年は昭和25年1950年で、朝鮮戦争が勃発して戦後の経済復興のきっかけになった年であり、その前の60年前に遡りますと明治22年（1890年）は東北本線が開通した年でもあり翌年、盛岡そして青森まで鉄道敷設がなされたそうで、寅年は歴史的社会的激動の年としてのジククスがあるようです。

さて我が国は昨年9月の政権交代から約七ヶ月を経過しております。しかしながら、激動の最中にあり、多くの環境の変化あり常時政治へ関心を保たざるを得ない不安定な社会状況でもあります。これらの推移は予断の許せない状況でもあります。

昨今の日本における経済情勢は景気の大きな落ち込みと共にデフレスパイラルが危惧されております。今回の10年ぶりの診療報酬改訂はプラス改訂になったとはいえ、0.19%のプラスと言う期待はずれの決定には落胆された先生方も多いのではないかと思います。何とか地域医療崩壊への歯止めになる対策を願うのみであります。

このような閉塞感の強い時代であればこそ、我々医師会の活動内容を質的に向上させるための吟味と検討が求められており、また地域医療崩壊を如何に防ぐかという具体的な対策を検討して実現に近づけることが喫緊の課題でもあります。

昨年末、県民会館で「カルタゴ展」が開催されており、ローマ帝国の歴史の中で重要なポエニ戦役におけるハンニバルの活躍が印象的です。スペインからエブロ河を越え予想も出来なかったアルプス越えを果たし、南イタリア地方のカンナエでローマ軍団を打ち砕いたハンニバルの活躍はとて有名であります。アフリカに宣教師としてではなく、医師として行くために、30歳から医学生になり医師として奉仕する決意したシュバイツァー博士は「我が生活と思想より」の中で次のように記しております。「私が医者たらんとしたのは喋らずにすむからであった。しかしこれからの来るべき仕事をただその実践のみをこい願った」とし、「医学生になることは甲斐のあることであり、このためあまりにも長すぎると思われるときは、ハミカルもハンニバルもローマに進軍するためには、スペイン征服に長い準備を経たのであると自らを慰めた」と記されています。

我々を取り巻く社会的経済的状況は極めて厳しいことを真摯に受け止め、我々は日々の地域医療を通して、保健・医療・福祉の諸活動へ長期的展望の下に、支援・協力することが最も大切な使命・役割であると思われまます。新年度も岩手郡医師会活動への一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、巻頭言の挨拶に替える次第であります。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 総 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

平成21年度 第1回岩手郡医師会通常総会

招集通知日：平成21年6月6日(土)
日 時：平成21年6月27日(土)
16時00分
場 所：盛岡市盛岡駅前北通2-27
ホテルメトロポリタン盛岡
NEW WING 4階メトロホール
総 会 員 数：95名

出席会員数：33名
委任出席数：40名
司 会：副会長 栃内秀彦
開 会：副会長 篠村達雅
議 長： 飯島 仁
議事録署名人：伊藤 昭治、杉本圭一郎
閉会挨拶：副会長 栃内秀彦

■■■■ 活 動 報 告 ■■■■

議長が担当部会活動報告を求め、各担当理事から平成20年度担当部会活動の報告があった。

① 総務

高橋邦尚理事より報告があった。

今回は頑張りました、トータルしましたら全部で10回の会を催しまして、そのうち6回はいわゆる総務会、それから2回の臨時総務会を行い、さらに2回の拡大総務会という形で、合計10回を行いました。

前半は主に特定健診等の取り決めについて協議しました。いろいろ医療行政の変化がありまして、我々の健診業務にもいろいろなことがでてまいりました。簡潔に申しますといわゆる滝沢モデルというのが中心になりまして、滝沢の健診業務をどうするかをまず話し合いました。その過程で、2回の拡大総務会を開きまして地域の先生方のご意見を伺いました。最終的には、会長、それから高橋牧之介先生のご尽力を得まして、予防医学協会とほぼ友好的契約を結ぶことができました。具体的には、我々の希望でありました腎機能それから糖尿病の指標、それから貧血等をすべて行い、さらに心電図も全例に行うということで、国



保というものは一斉にとりおこなうということ、それから、社会保険の家族につきましても、ほぼ金額的にも国保と同じレベルまで引き下げることにに関して了解を得ることができました。

この滝沢モデルを皆様に示したうえで、各地域ごとの事情に応じまして、現在、特定健診が行われているものと思われます。

後半につきましては、いわゆるインフルエンザの対策についてですが、これはまだまだ広報の仕方等について検討の余地があると判断いたしました。

② 地域医療

栃内秀彦副会長より報告があった。

総務とほとんど同じ内容となっておりますが、主に特定健診とインフルエンザの件が今年の初めから現在に至って行われています。特定健診は紺野先生、高橋邦尚先生、植田先生、高橋真先生等が中心になりまして役場と交渉し、また郡の拡大総務会

が開かれまして、なるべくなら郡全体で方向づけをしていこうということで、地域差があるので全員同じようにはいかないのですが、できることからやっていこうということで進んでおります。

インフルエンザにつきましては、予防グッズの配布ということで、もちろん岩手郡医師会だけでして、ほかの医師会の先生方からうらやましがられております。今後も、使わないのが一番いいのですが、予算のゆるすような状況があれば、また、今一つ増やしておいてもいいのではないかと考えています。それからインフルエンザのほうは、沼宮内の佐々木先生が中心となっていろいろやっております。皆さんご承知のとおり、まだ終息宣言が出されていないということで、まだ一応要警戒というふうな状況にあるかと思えます。

③ 医療保険

佐々木久夫理事より報告があった。

保険問題については、特別報告するようなことはありません。いまのところ、このままです。

④ 産業医

森茂雄理事より報告があった。

平成20年度の産業医の活動は、実地研修会を平成20年10月11日に行いました。場所は、松尾にあります積水メディカル岩手工場で、最初に岩手医科大学公衆衛生学の大澤正樹先生の講演で、タイトルは「特定健診と循環器疾患の予防」で1時間の講演で中身が濃くよかったですと思います。その後で、積水メディカルの工場見学ですけど、この工場は山の中にあるんですが、とても素晴らしい施設で、特に最終産物の産業廃棄物をけんき性の発酵で、メタンガスを作っていて、それをただ恰好だけでメタン

ガスを使っているのではなくて、工場のエネルギーの三分の一か四分の一になるエネルギーとなっていて、素晴らしい工場です。ISO14001にも認証されております。

今回は、連休の前の日で、だいぶおしかりを受けておりますので、今年は連休の前の土曜日にはかからないようにするように努力します。

⑤ 学校保健

山口淑子理事より報告があった。

20年度は2回会議を持ちまして、活動方針の策定とか報告とかしました。21年度に入りまして、4月に今年度の活動を確認しました。担当は、各市町村から1名出ただくんですが、雫石町で谷藤先生が医師会を退会されたということで、上原先生に再復活していただくことになりました。今年度は、岩手町、葛巻町、八幡平市で、肥満の子供が県平均より多いということで、県央保健所主導で「メタボ予防生き生きキッズ大作戦」というのを始めました。学校現場で、小学生にアンケート調査が始まります。成人病予防と食育の大切さを、学童、親子に気づきを促すというような目的で始めます。各市町村で相談があると思いますが、その時はよろしくお願いします。

⑥ 広報

山口淑子理事より報告があった。

本日、封筒の中に岩手郡医報92号が入っていると思います。20年度に2回発行し、



本当はこれが20年度の3回目の発行と
思っていた方がいいと思います。中身
も20年度のことが主に書いてあり最後
に21年度の事業計画が書いてありま
すが、これは前回の総会の時に発表
されたものです。いろいろ間違いが
ありますけど、おゆるし下さい。医
師会の野球大会選手名簿もだいぶ
違っているとの指摘もあり、正しい
選手名簿については、事務局から
連絡がきますので、よろしくお願
いします。

本日、ご報告いただいた各担当理
事の先生にお願いがあります。今日
、ご報告いただいた内容を、近日中
に私のほうにお送りいただければ
と思います。

⑦生涯教育

栃内秀彦副会長より報告があった。

遠藤先生の報告を代読します。

特段なことはありませんが、例年
のごとく郡医師会として、年に4、
5回の講演を実施して単位取得の
申請を行っていく予定です。単位
を取得した方で報告していない人
があるので、県医師会のほうに報
告してくださいとのことですが、申
込しなくても自動的に県医師会に
報告が行くはずですので、遠藤先
生が勘違いしておられると思いま
すが、単位を取得していただきたい
ということです。

⑧健康教育

高橋邦尚理事より報告があった。

現在、詳しいことは決まっていま
せんが、秋になりまして本年度は
、八幡平がリーダー

となって何らかの形で開催する予
定となっています。詳細は後ほど
ご連絡いたします。

⑨診療所

篠村達雅副会長より報告があった。

岩手県医師会診療所部会幹事会
が、6月13日に2年ぶりに行われ
ました。

中身の報告ですが、岩手県看護
職員確保対策連絡協議会、岩手
看護職員確保定着アクション
プランという、2008年から201
0年というもの、それからもう一つ
は、都道府県医師会医療関係者
担当理事連絡協議会というのが、
2月13日に日本医師会であ
って、その時は、看護職員をめ
ぐる最近の動向について、そして
看護職員確保対策予算がついて、
それを早く出してくれるように
との話がありました。それから、続
いて有床診療所協議会というの
がありました。

その中で、一つ変わったのは、
一般の有床診療所にショートステ
イをおいてOKだと、それで30日
間のうち1日だけ退院させるとい
うことだそうです、結局29日間
は介護保険をつかって入所させ、
1日は退所させるか自分で自己負
担するかして、また1ヶ月継続し
て、それを繰り返すことが可能に
なるとのことでした。ただ、施設
の人員等についてしぼりがある
ので、それをよく見てくださ
いとの説明でした。

⑩医師連盟

及川忠人会長より報告があった。

岩手県医師連盟が、これまで3
回郡市医



師会長会議の後におこなわれました。その他に、5月15日に岩手郡が2区ということで、特別指定区域ということで、日本医師会から常任理事の先生と西島参議院議員、そして鈴木俊一衆議院議員、そして我々会長・副会長、医師連盟担当の宮古と二戸そして岩手郡、盛岡も一部集まりまして、協議の場を持ちました。

なかなか地域医療の改革とかいろんなことで大変な状況の説明がありました。また、特にカルテの電子化についての緩和策が、65歳以上の方にはいろいろ緩和するとか、あるいは300件以下の場合は緩和するとか、保険の様々な緩和策を提案中であるとの説明が西島議員のほうからありまして、いろいろ交流の場を持つことができました。

昨今の政治情勢を見ますと、非常に緊迫感があり、医師連盟の立場からなかなか大変な面もありますけど、また、それぞれの地区の先生方に、いろいろとご支援をいただかなければならないと思っております。その時は、それぞれの地域を回って願をしなればと思っておりますので、よろしくご支援願います。

活動報告全体について、議長が質問を糺しましたが、特に質問・意見はなかった。

議 事

続いて議長は議事に入った。

第1号議案 平成20年度岩手郡医師会一般会計決算（案）について

第2号議案 平成20年度岩手郡医師会休祭日当番医会計決算（案）について

第3号議案 平成20年度岩手郡医師会特別会計決算（案）について

議長より、第1号議案、第2号議案、第

3号議案は、一括して上程する旨説明があった。

続いて、篠村達雅副会長より、別紙資料2から4に基づき説明があった。

決算案について、議長が質問を糺したところ、下記の質問があった。

根本先生：いつも繰越金が3千万円くらいあり、私の時から2千万円くらいあって増えている、現に、私も当番医をやっているけども、誰も当番医はやりたくないというのが事実で、この積立金は、こんなに法人だから持っていていいものかどうなのか今後ね、それから、こういう患者さんがどんどん減ってきて、積立金を積んでおいて、岩手郡の先生が例えば120人で一人10万円としても1,200円だと、まあ半分にもなる、そういう返還の要求が出た場合のことも考えなくてはならない、あるいは、次の政局で補助金がこんなにくるかどうか、これから積み立てができるかどうか、そのへんの予測といたしますか、どうしようかという考えを持っています。

及川会長：この問題は、いつも、前回の総会でもいろいろと議論がありまして、いま公益法人の改革が行われていまして、あと4年のうちにどうするか態度を決めなくてはという状況にあります。

そういった場合に、剰余金といたしますか、持っているお金をどうするのかというのが問題となります。ただ、高橋牧之介先生から引き継ぎまして、その時とそんなに沢山変わっていないんですけど、最初は、郡医師会の会館を作るとか、本部を作るんだとかの目標で、先輩方が営々と蓄えてきたお金でもございますし、ほかの医師会では、その都度件数に応じて分配しているところもありますが、大多数の医師会は、い

わゆる医師会の運営資金として使っているというのが大部分であります。

そして、これは公的に毎年380万円位きてまして、前は430万円くらいでしたけども、玉山村が抜けたために減ったということで、これは、たぶんそんなに減っていくことはないだろうと思っておりますが、ただ、これからの情勢の中で、合併とかいろんなことが起こってきますと、どういふふうに考えた方がいいのか、非常に思い悩むものがございます。

ただ、これは高橋顧問とも話しています、いざという時にある程度お金を持っていないと大変なことになるんじゃないか、全体の所帯がいま95名ですので、そして5市町村に渡りますので、何かがあって、この間のインフルエンザの予防具でも100万円ちょっとかかるということで、なんかあれば、もっとそういう支援するときに、医師会がお金を持っていなければどうにもならないだろうということで、けっして、豊富な金持ちということでもありませんし、そのお金以外には何も岩手郡医師会は蓄えがありませんし、後はみんな人的なネットワークのみ財産としてあるということでございますので、これから検討委員会みたいな形で皆で詰めなければならないなと思った矢先に、特定健診やインフルエンザに追いまくられて、まだそこまで手が回っていないというのが実情でございます、次の臨時総会に向けて皆で検討してまいりたいと思っておりますので、どうぞいろいろたくさんのご意見をいただければありがたいと思っております。

田村先生：資料2の歳出の部のところですけども、旅費交通費がけっこう高額なので、次回から摘要の所にもう少し詳しく説明していただければよろしいと思います。

及川会長：旅費交通費はいろいろな委員会

等が多くなれば、その分だけ増えていきますので、今回は特定健診など様々な対応のため、いつもより多くなっております。旅費支給についてもルール作りが必要と思っております。今後の検討課題であります。

ついで、高橋孝監事より、資料8のとおり5月28日に私と西島先生が参加しまして、会長と事務職員から説明を受けましたが、まったく立派なものでした。去年も感心しましたが非常に立派な会計処理でして、社団法人岩手郡医師会の平成20年度の業務および財産の現況について、会計帳簿および書類の閲覧により妥当であると認める旨、監査報告がなされた。

第1号議案および第2号議案並びに第3号議案について、議長がこれを諮ったところ、全員異議なく、原案通り満場一致をもって、承認し可決された。

■ ■ ■ ■ ■ そ の 他 ■ ■ ■ ■ ■

①特定健診機関の請求事務代行の手続きについて

及川会長から資料9に基づき説明があった。

特定健診の集合契約、これが昨年度、滝沢村と雫石町のみで、ほかの市町村はなく健診事業を継続していたわけですが、平成21年度から八幡平市と葛巻町が加わるという形になり、集合契約としての機関コードを届けるということで、こういう形になって一覧できると、これでどのような状況になっているのか把握できるということで、それについての詳しい説明です。後でお読みになっていただきたい。支払基金のほうに岩手郡医師会が集合契約として皆さんに変わって申込んだものです。

特定健診機関の請求事務代行の手続きについて、議長が質問・意見を糺したが、特に発言はなかった。

②第61回岩手県医師会親睦野球大会参加について

及川会長から資料10に基づき説明があった。

8月23日に紫波運動公園野球場中心に、紫波郡医師会が担当で岩手県医師会親睦野球大会が開催されます。遠くでの開催ですと前の日に宿泊しての参加ですが、近いところですので、今年も、滝沢村の高橋顧問宅に集合して、マイクロバスを使って紫波にいきたいと思います。また、それぞれで参加する方も多いたと思いますが、よろしくご支援いただきたいと思ひます。なお、植田先生に主将になっていただいて、練習日などお願いしてありますので、いろいろ連絡があると思ひますが、ご支援いただきたいと思ひます。6月末になりまして7月1ヶ月しかありませんが、何回もありませんが、皆で練習できる機会を数回持ちたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

野球大会について、議長が質問・意見を糺したが、特に発言はなかった。

議長が、その他提案事項があるかを糺したところ、下記の報告・質問があった。

医師信用組合の理事を務めさせていただいている坂井ですが、信用組合の状態を簡単に説明させていただきますが、今日、実は総代会がありました、昨年度は5回理事会がありました、みんな諸先生方厳しい経済情勢の中、岩手医師信用組合はだいたいじょうぶなのかと心配なさっていると思ひますが、いずれもこの厳しい全国のサブプ

ライムローンに始まって、厳しい経済情勢のなか極めて健全な経営をしているようでもあります。昨年度の利益は1億円を超えておりますし、自己資本率も27.6%で非常に健全な経営となっておりますので、先生方にぜひご利用いただきますよう、お願ひかたがたご報告とさせていただきます。

田村先生より、財産目録資料7のところの一つ教えていただきたい旨発言があった。この預金のところですけども、3,200万円は普通預金になっていますけど、これで間違いはないですか。全体としてバランスが悪い気がしますので教えてください。

及川会長：今日は会計実務者がおりませんので、通帳の詳細まではわかりませんが、この間、監査で監事の方に確認していただきました。実際に、いろいろ動かしたりする大きなお金が必要で、そういうことでこの口座だけ大きくなっていると理解しております。

これを、どうするか検討したときがあったんですが、いろんなことがあり、今、このような形でやっていると思ひます。特に、これが非常に問題だというふうには思っておりません。

田村先生：わかりました、監査も終わっているんで特に言うことではないが、この数字自体は総務会の先生方は常に確認なさっていただいているのでしょうか。

及川会長：監事会は、監事2名と会長、副会長5名で構成していますし、全員で確認していますので、本当に間違いはございません。

以上議事を終了

17時00分 柝内秀彦副会長が閉会を宣言した。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 総 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

平成21年度 岩手郡医師会臨時総会

招集通知日：平成21年11月16日(月)
日 時：平成21年12月5日(土)
17時30分
場 所：盛岡市盛岡駅前北通2番27号
ホテルメトロポリタン盛岡
NEW WING 3階 星雲の間
総 会 員 数：92名

出席会員数：24名
委任出席数：49名
司 会：副会長 栃内秀彦
開 会：副会長 篠村達雅
議 長： 飯島 仁
議事録署名人：山田わか子、土井尻健一
閉会挨拶：副会長 栃内秀彦

■■■■ 会 長 挨 拶 要 旨 ■■■■

岩手郡医師会会長 及川 忠人



本日は土曜日のご多用のところ、岩手郡医師会臨時総会にご参加頂き誠にありがとうございました。激動の年も師走を迎えて何かと忙しい、追われるような圧迫感を感じる昨今でございます。

さて、新政権が発足して、その対応としての日本医師会の立場の変転が目立つ昨今で御座います。特に中医協委員が激減する等の変化に大きな驚きを感じる先生がたも多かったのではないかと思います。しかしながらこれまでの与党としての自民党の行ってきたことを考えると、政権交代の実現に伴う変化を我々は経験しておりませんので、今後の方向についてはとても見えにくいものがあると思われれます。

様々な変化の中で考えられることは、あまり医師会が政治的に関わることが果たして良いことであるかどうかということでもあります。我々は患者さんとして病気の診察を行う場合には、その人の政治的考え方を特に注目せずに診察治療をしているわけですから、むしろ我々は政治をある超越した面から見ていくという基本的立場が必要ではないかと思われれます。特にこれまでの日本医師会・県医師会の政治連盟のあり方そのものは見直しが必要な時期にきているのではないかと思われれます。

そのような意味からも地域医師会の活動を如何に進めるかは極めて重要な要因であり、これからの医師会はあまり政治に翻弄されることのない、そのような環境作りが必要ではないかと思われれます。これまでの活動の中でどうしても医療費抑制に対する政治的活動は必要であったわけですが、最低限度の医療確保のための医療費の引き上げは必須のことであり、其れ無しには、今後の地域医療の確保自体が困難となることを我々の課題として捉えることが必要であると思われれます。

今回の政権交代による変化については、診療報酬の底上げは実現する可能性は高いわけですが、まだこの政治状態ではどのような変革が起り得るかつかみにくい状態

が続いております。

さて8月の中旬から新型インフルエンザ対策が大きな課題となつてまいりました。小生の所属する東八幡平病院においても、大相撲の八幡平場所における力士のインフルエンザ罹患には驚きました。幸い適切な対応により、大事には至りませんでした。大変な衝撃を得たわけであり、新型インフルエンザ流行の拡大とともに、診療体制の強化について拡大総務会を開催して、県央保健所との連携を深める努力を致しました。さらに各市町村毎の流行拡大時の診療体制の強化について検討することになりました。特に滝沢村では休祭日当番を二組で行う方式に11月初旬に行い取り組むことができました。11月がそのピークとなったような状態ですが、今後は次第に流行縮小へと推移することが予想されますが、二次的流行も可能性がないわけではなく、さらに季節型インフルエンザによる流行と重なる場合には注意が必要であると思われる。

これらの新型インフルエンザ対策について、特に新型インフルエンザワクチンの供給が少なく10月19日にまず、医療関係者が新型インフルエンザワクチンを接種して、次いで看護師さん達に接種して、これからと云うことになりましたが、色々な課題が山積しております。

最近のニュース等で新型ワクチンの副作用が強いことが分かり、新型ワクチンの接種希望者が激減してきていると思われま。今後、新型ワクチンの輸入や副作用等を総合的に加味して、地域住民の視点にて検討することが大切であると思う。

さて12月2日に唐沢日本医師会長は都内で開催された「医療フォーラム」にて演説して、医療・介護分野の強化が日本の活力を再生させると協調したうえで、「安心し

て財源を投入する」ことを希望しております。これまでの医療費抑制政策により医療崩壊現象をこれ以上進行させないようにするためには、医療費・介護費が成長社会実現に向けた投資であることはすでに西洋社会が証明していると語り、日本も大きく舵を切る時期に來たことを指摘しています。

消費税にも言及してこれまでの整理のつかないままに消費税を引き上げれば医療機関の経営が立ちゆかない事態も起こり得ることがあり、むやみな消費税の引き上げに反対の立場をとっているようであり、いずれにしても、激動の時節で先が読みにくい状態ではありますが、岩手郡医師会は地域医師会の立場から地域住民の視点から、今後の医師会活動を活発化することが必要ではないでしょうか。

本日は臨時総会ならびに恒例の忘年会ではあります。例年であれば叙勲を頂いた先生方の祝賀会をと検討致しましたが、諸般の事情でそれを断念しておりますことを、ご了承頂きたいと存じます。

新しい年に向けての英気を共に頂きながら忘年会を通して交流の場が有意義なものになることを期待申し上げまして、臨時総会における、会長挨拶に替える次第であります。

会 務 報 告

(1) 議長が会務報告を求め、及川忠人会長が一括して下記内容の報告があった。

- 6月27日 岩手郡医師会大1回通常総会、高橋牧之介顧問の特別講演
- 8月7日 社会保険集団指導
- 8月23日 岩手県医師会親睦野球大会（紫波郡医師会担当）
- 8月30日 衆議院議員選挙
- 9月19日 救急蘇生研修会（葛巻町）

- 9月25日 救急医療懇談会・特別講演（県立中部病院：真瀬先生）
- 9月29日 拡大総務会（県央保健所と新型インフルエンザについて協議）
- 10月6日 八幡平市、滝沢村でインフルエンザの検討会議
- 10月17日 産業医研修会、八幡平市のアステラス製薬西根工場で、立身政信岩手大学管理センター教授の講演
- 10月20日 第4回役員会開催（平成22年度からの役員候補を選出する役員選出委員会の立ち上げが決定しております）
- 11月6日 八幡平市で市民健康講座を開催（講師：三浦先生、及川）
- 11月26日 ヘルスサポート会議
- 11月29日 厚生労働省の伝達研修会が県医師会秋季総会と一緒に開催

本日は臨時総会にあたり、平成21年度第1回通常総会・特別講演会開催以後の重要な活動等を取り上げて、会務報告に替える次第であります。

何と言っても、通常総会の後の大きなことは政治情勢にともなう、医師連盟活動の推移でありました。8月に衆議院選挙が事実上の選挙線となり、8月下旬告示8月30日投票日となりました。予想通りと言ってはいけないかもしれませんが、民主党の大勝利で、政権交代が現実のものとなったわけでございます。これまで何度か総会にて議論もありましたが、医師会活動の中で最も大変なことは総選挙への対応策でございました。今回は自民党の推薦候補を支援する形ではありましたが、すでに大多数の地域住民は民主党への政権担当を容認するかの如く流れて、その風には到底医師会としても防ぎ込めることではなかったように

思われます。

その選挙後の対応があまりはつきりせず、9月中は過ぎたのですが、9月下旬から中医協の日医委員が外されるという予想し得ない事態が起こり、政権交代という現実を考えさせられました。

その後は様ざまな一連の動きではありますが、今後の民主党政権の方向は今しばらく、冷静に見つめないとその本態はなかなか理解できないのではないかと。またこれからの医師会活動のあり方そのものが問われているように思われてなりません。

これらの変化の中で、新型インフルエンザの流行拡大、新型インフルエンザワクチンの接種、ワクチンの購入のための事務手続き等一連の県医師会をとおして、県国のワクチンの対応については、不足の状態が続き、少なからず地域住民に不安感を与えたことは事実であり、なるべく不安感を与えないように、会員医療機関毎の対応をしていただいたのではないかと思います。ご不満の意見は医療機関だけでなく市町村の担当窓口には沢山あったやに聞いております。

さて、昨年の県立病院病床削減計画により、様々な政治問題化しているなかで、平成21年度第1回盛岡医療圏・地域医療に関する懇談会が5月25日に開催されました。この懇談会をご承知の通り県議会にて問題となった県医療局の病床削減計画について、あまりに地域の意見を聞くことを怠っていたのではないかと世論を背景に県央保健所が中心となり、進めたものであり、その構成は住民代表、医療団体、公立・民間病院、福祉介護機関、市町村、行政機関が一同に会し、さらにオブザーバーとして県議会議員が参加しており60余名の構成で大きすぎる等の意見が出されました。

第2回の8月3日の会ではそれまで出された意見を集約して、分科会の設置を検討して承認いただき、第一分科会は安心できる地域医療体制について、第二分科会は地域ケア体制について、第三分科会は住民が支える地域医療体制についての三つの分科会に分かれて課題を検討することになりました。小生は第一分科会の座長として指名されて、その方向付けに参加することができました。

第一分科会では二回の会合10月と11月に開いて、それぞれの分科会が検討を加えて、11月19日に第三回の懇談会を開催致しました。

様々な課題および地域住民への啓発活動さらに、医療機関相互に出来ることの検討、そして県あるいは国への要望としての意見を集約することが出来ました。これらの懇談会では各分科会毎の取り組むべき項目について具体的に列挙しさらに県へ国への提言と致しました。

またこれらの課題について主体的に取り組むことや行えることから実施することや解決困難なことについては継続的に検討することそしてこれらの進捗状況を計画的に随時見直しをすることを申し合わせて協議を終了することになりました。今後の地域医療の展開進展に少しでも寄与出来れば有り難いと思っております。

日頃の地域医療の課題をこのような形で参加して意見を述べる事が出来ましたことは、日頃の医師会会員のご支援とご協力の賜物であることを感謝申し上げます。地域医療の主人公は地域住民であることを今一度心の留めたい旨、意見を申し上げます。

(2) 第1回岩手郡医師会役員選出委員会報告

篠村達雅副会長より下記の報告があっ



た。

岩手郡医師会定款第15条により、平成22年3月31日で現役員の任期が満了となっており、平成22年度の新役員の選任が必要となります。

10月20日の役員会において、推薦立候補制にすること、それから役員を選出するための役員選出委員会の設置が承認されました。

選出委員は、別紙資料の役員選出委員会記録にある、理事から5名、理事以外から4名合計9名の委員になります。

11月7日に第1回の選出委員会を開催しました。委員長に、私、篠村が任命されました。推薦立候補制によって、理事13名、監事2名の候補者を選出すること、推薦人は前回3名でありましたが、今回は2名とすること、12月21日に岩手郡医師会役員選出告示の予定、立候補者届出用紙等の書式、立候補届出申し込み締め切りを1月8日ごろにすること、第2回の役員選出委員会を1月12日にすることを決定し、12月15日の役員会に提出して承認を得ることとした。

(3) その他

篠村副会長から下記の報告があった。

先日、盛岡地区二次救急医療体制30周年記念式典並びに臼井盛岡市医師会長の救急

医療功労者厚生労働大臣表彰受賞祝賀会が、主催は盛岡市医師会及び盛岡地区二次救急医療対策委員会で、11月26日に盛岡グランドホテルで開催されました。

出席者は、岩手県保健福祉部、盛岡市、矢巾町、紫波町、八幡平市、岩手町、葛巻町、滝沢村、雫石町の行政関係者、消防本部、各消防署の関係者、岩手県医師会、盛岡市医師会、岩手医大医師会、紫波郡医師会、岩手郡医師会、二次救急病院群11病院の方、小児救急病院群5病院の方で、約100名の出席でした。

式辞が臼井先生、祝辞が盛岡市長と岩手医大大堀理事長でした。

全国に先駆けて昭和54年12月1日盛岡地区二次救急医療体制が発足し、9病院で輪

番制を実施し、平成11年4月1日小児救急病院輪番制を7病院で実施した。先般の救急医療学会で、救急医療体制は盛岡方式が目標というふうな結論になったという話がありました。諸先輩の先見の目、努力に感謝し、今後も更なる充実を図るというお話でした。

議長が、質問・意見・その他提案事項があるかを糺したところ特に発言はなかった。

以上議事を終了

18時00分 栃内秀彦副会長が閉会を宣言した。

■■■■■■■■■■ 特 別 講 演 ■■■■■■■■■■

■日時／平成21年12月5日(土) 17:30～

■場所／ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 3階 星雲の間

演題：「デンマークの医療福祉について」

講師：(財)みちのく愛隣協会理事長

東八幡平病院 院長 及川 忠人 先生

デンマークが社会福祉モデルとして注目されて、久しいが我が国は今、極めて重要な医療福祉の方向付けを定めるための岐路にあると言えようと思う。しかしこの国の形を学ぶとき、医療福祉はデンマーク独自の教育制度に支えられて発展してきたことに気づかされます。その源流は1844年に開始されたデンマーク国民高等学校の存在があります。これらの歴史から、どのようにデンマークが主権在民を主体とする民主主義を育んで来たかが良く理解出来る。特に

ノーマリゼーションの考え方の背景には、第二次世界大戦で経験したナチスドイツによる占領という辛い歴史的な国民的体験を経た叡智が大きな影響を与えていると思われます。

北欧のこの国から学ぶべきことは、今ある差異に気づきつつ、それらを生み出したデンマーク国民の民主主義の育て方そして現場での生かし方に大いに学ぶことが多いのではないかとと思われます。

デンマークの医療と福祉の現状

社団法人岩手郡医師会
会長 及川 忠人

2009-12-05

岩手郡医師会臨時総会特別講演
於:ホテルメトロポリタンNew Wing 3F

デンマークという国

- 北欧にある小さな国:東はバルト海、西は北海に面し、ユトランド半島、シェラン島、フン島等500以上の島々からなる国。
- 面積は約43000平方キロで九州とほぼ同じ大きさ。(グリーランド、フェロー諸島以外)
- 人口は551万人(2009年度デンマーク統計局)で東京の半分以下。
- 気候は温和で、夏は比較的涼しく、日本の北海道の夏の季節に似る。緯度は樺太の北に位置し、冬は岩手より暖かい。



実存哲学者キルケゴール

- 単独者の主体性こそが真理と説く個人主義、実存主義を唱えた。
- 社会と個人は相反するもののように思われますが「個人を大切にすることが、個人の集まりで構成されている社会を大切にすることにつながる」のです。
- デンマークが社会福祉国家になった一つの要因としてこのキルケゴールの思想があります。



幸福度マップ

- ・ イギリスのレスター大学の心理学者(2006)の幸福度調査
- ・ 第一位:デンマーク
- ・ 第二位:スイス
- ・ 第三位:オーストリア
- ・ アメリカは23位、日本は90位であった。
- ・ 実際に国民の80%は「この国に生まれて良かった」といっている国がデンマークである

幸せな国の方程式

- ・ 「幸せ」とは「生活しやすい」＝「安心・安全」
 - ・ 幸せな国＝住みよい国＝生活大国
 - ・ ゆりかごから墓場まで保障している国＝
- ↓
- ・ 民主主義の国(主権在民の国)＝
- ↓
- ・ 自由＋平等＋連帯＋共生



デンマーク国民高等学校の歴史(1)

- ・ N.F.S. Grundtvig(1789-1872)により創設された。
- ・ 彼は歴史家、詩人、宗教家、政治家、教育家でありその仕事量に於いても質に於いても、当時の最大の人物であり、また偉人であった。
- ・ その創設の動機は北歐古代史からVikingの名によってデンマーク人の祖先たちは北極星の輝く北海を中心に東はバルチック諸国から西はアイスランド、フランスからイタリアの沿岸に至るまで勇名を馳せ、その偉大なる業績を今日の青年に知らせる秘められた希望であった。

国民高等学校の歴史(2)

- ・ 1830年頃、彼は国王の命令で英国に留学すること三回に及び、大英博物館の倉庫の奥に塵まみれて世人に捨てられたあったアングロサクソンの古文書や歴史書をむさぼり読んだ。
- ・ しかし当時の英国はテムス河口には大船巨船数百が積み込み出船入船に賑わい、陸上では機関車の汽笛、幾十幾百の工場から立ち上る黒煙はロンドン市の上空を暗く覆う有様であった。その英国人の活動と祖国デンマークの祖先達の活躍ぶりそのままであると、デンマークの青年達は昏々として眠っている状態である。何故かと考えた。

国民高等学校の歴史(3)

- ・ 英国とデンマーク両国の差は何によるのかと彼は考え、英国の持つ自由をデンマークはまだ与えられていない事にあると考えた。
- ・ 彼は早速国王に建白書を送って、デンマークも速やかに憲法を發布して人民に参政権を与えるべきと説いたのである。
- ・ そこで彼は学校を建てて政治を教え、祖先達が信仰に満ちて活躍した昔の美しい勇ましい物語や詩を青年達に教えるべきであると考えた。これが Grundtvig の国民高等学校創設の大きな理由の一つであった。

国民高等学校の歴史(4)

- ・ 国民高等学校創設のもう一つの理由は国語の問題であった。
- ・ デンマークの西方のユーランド半島は半島の基部シュレスウイ及びその南ホルスタイン地方が、かつてはエルベ河に至るまでデンマーク領であった。
- ・ それがドイツ語の勢力に押され押されて、遂にドイツに占領されてしまった。このままではデンマークの独立も危ういと彼は考えた。
- ・ 母国の言葉は生きた言葉であり、国民の生命の通っている正しいデンマーク語を国民高等学校で青年達に教えたいと考えた。

Grundtvigの国民高等学校の思想

- 1836年四ツ葉のクバーと云う冊子を出版して、四ツ葉は極めて稀であるので幸福のシンボルとして喜ばれる。彼は四ツ葉を国王、国民、祖国、国語の四つになぞらえ、この四つが一致して行けばデンマークは幸福になる象徴とした。
- この国民高等学校では、生徒の人格の陶冶と処世に必要な高等常識と教養を涵養することにその目的があり、普通の高等学校や大学とは大いに趣を異にした。従って、生徒に正しい人生観を把握させることに主力を注ぎ、国民として社会人として理解しうる教養ある社会人を送り出すところに大きな目的があったのである。

一人一人を大切にする教育

- 民主主義を育む：平均50%の所得税、25%の消費税という高税による財源が世界最高水準のデンマークの福祉を実現させた要素の一つである。
- しかしはるかに重要な要素は、市民社会に定着している民主主義である。
- 民主主義の基本的理念（平等・人間尊重・個人の自由を最大限認め、その人の生き方、生活の仕方を出来る限り大切にす態度）が市民生活に根付いている。それはこの民主主義を育てたのが「デンマークの教育」である。



「ノーマリゼーション」の意味を理解する

- 「ノーマリゼーション」の概念は机上で議論されるような、高尚なものでなくてもいい。ごく当たり前の人間のあり方で、日常生活の心構えに近い。
- 「ノーマリゼーション」＝「社会的公平」＝「障害者や老人の生活条件を障害を持たない人達の生活条件に可能な限り近づける」の考えを実践の場で理解される必要がある。
- そのために国民全員が自分達の生活が如何にあるべきかを真剣に考え取り組むべき時である。



高齢者センター訪問等

- それぞれの高齢者が自宅に住む状態に限りなく近いような形式であった。
- 各人が2-3部屋を持ち、それぞれが食事をする事が出来るスペースを共有する形であり、西和賀高校からの高校生も訪問していた。
- それぞれが元気に若い時代に憶えた歌集から選び、合唱を聞くことが出来た。
- 皆さんがとても姿勢が良く、老いて衰えずの感が強くとても感銘をうけた交流のひとつであった。

世界的水準を誇る高齢者福祉

- 高齢者のとらえ方の変化：
- 1960年代の核家族化が進み高齢者は子供と別居となり、高齢者は日常生活に支障を来すようになり、結果的に多くのプライエムが建設され、高齢者がそこに収容され、医療・介護を受けた。
- 1970年代となり、老人が病人でなく、余生を楽しむ人で、十分な介護支援が必要と考えた。
- 1980年代前半から福祉政策の膨大な赤字から財政の負担を増やさないのでその質を維持する方法を検討することになった。

住居の形態-高齢者住宅が主流

- 1988年「社会支援法」の改正により新たに「プライエム」の建設は禁止となる。その後デンマークでは高齢者住宅や介護住宅等、在宅で24時間対応の在宅支援サービスが用意されるようになった。
 - ①高齢者住宅：高齢者向けの集合住宅、各部屋に二部屋、トイレ、バスルーム、キッチンがある。平均67平方メートル以下に規制。
 - ②介護型住宅：職員の介護サービスがついた住居形態である、設置に国からの補助金が支給される。
 - ③保護住宅：職員によるサービス付き住居。



高齢者福祉審議会の前提

- 1989年に発足した高齢者福祉の前提として、高齢者を死に近づく人としてではなく、「第三の人生」を生きる人として積極的に捉える。
- その第三の人生を過ごす生活の場として、プライエムではなく「高齢者用の住宅を建設することにして、老人は病人ではない」とした。
- その社会的背景として、子供が18歳になると親と別居するのが一般的で、介護や保健サービスは公共部門の責任とされて、地方自治体の重要な仕事として位置づけられた。

デンマークの医療制度の実態

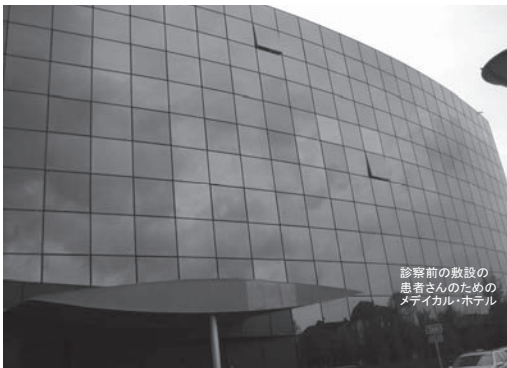
- 医療費：国民すべてが無料
- 初期医療と第二段階医療に大別されている。
- 初期医療：①保健師②家庭医が行う、家庭医は1500人から2000人に一人の割合でいる。
- デンマーク国民とデンマーク国滞在許可証を所持する外国国籍の人は、一人の家庭医を自分で選ぶことができる。
- 家庭医は訪問看護師と連携して在宅の高齢者、障がい者の治療行もします。
- 家庭医での処置が出来ない時専門医あるいは総合病院での入院治療となります。

患者の自己決定を尊重

- どんな治療を受けるか、注射に至るまで患者の自己決定にまかされている。家庭医は親と同じ場合が原則であるが、自分で選択が可能である。
- デンマークでは定期的で強制的な健康診断の制度は無い。そのため健康診断の受けるか否かも自己決定にゆだねられている。
- 各家庭が家庭医を持ち日頃から関係を密にしておくことで、治療からリハビリテーションまで全体的なケアが可能となるという認識が広がっている。

デンマークの医療サービスの充実

- ・ 入院患者さんの9割が治療サービスに満足：かかりつけ医診療、病院入院、訪問看護は全てが無料、病院には家族のための宿泊施設があり、子供が入院した時には親一人の滞在費は無料、病院までの往復の交通費や車のガソリン代まで退院後に戻ってくる。
- ・ 退院会議：医師・看護師等の治療スタッフが自治体サービス責任者と協議して退院計画を作り、患者や家族の退院後の生活を保障するシステムが定着している。



家庭医：悩みごとの相談まで対処

- ・ 家庭医は風邪、外傷、胃炎、感染症等の一般的な病気等を治療し処置する。
- ・ 健康診断、ワクチンの投与、予防接種、退院した患者のアフターケア、
- ・ 子供が出生した後の5週間、5ヶ月1年目の定期検査を担う。喫煙、飲酒の害のキャンペーン車の免許と取る時の健康チェック、
- ・ 若い女性の社会生活に備えてのアドバイス、精神的悩みや家庭のもめごとの相談にもものごとがある。
- ・ 家庭医は予防と治療と相談の三つの役割を持ち、初期治療（プライマリケア）の最前線にあって、地域住民の医療、保健、精神衛生の身近でなくてはならない存在となっている。

自宅で看取る

- ・ 「在宅看取り支援制度」が自治体が補償する体制になっている。
- ・ がん患者が自宅で最後を過ごす場合を想定しているが、もちろん介護を受けている高齢者の最後を看取る場合もこの制度を利用出来る。
- ・ 自宅で看取りを希望する人が休職する場合、自治体は本人に対して毎月同額の給与を支給する。この制度は税金で賄われている。
- ・ デンマークでは病院で最後を迎える人は5割で、残りの半数は自宅やケア付集合住宅で亡くなる。





高齢者福祉の三原則

- ① 継続性の原則:これまで通りの生活を続けることで、自分の家で、住み慣れた地域で、これまで通りの生活の継続を支援する。
- ② 自己決定の原則:自分の生活の仕方は自分で決めることで、高齢者が判断・決断したことを出来るだけ尊重する。
- ③ 自己資源の開発の原則:新たな能力の開発により、彼らの生活を快適にし、可能性を広げることである。技術、技能、趣味を生活を豊かにする資源として捉える。リハビリや作業療法、趣味活動、リクレーション等を行う。

デンマークの国を表すキーワード

- 成熟:民主主義によって裏打ちされた自由、平等、連帯、そして共生が市民生活に根をおろしている。
- 自由:人間の価値観、生き方、生活の仕方、自分の進路等大切な選択をする場合の自由が認められている。
- 豊かさゆとり:食料自給率300%で老後に心配がない。貧富の差がなく、安心して老いることが保障されている。
- 先見性:主体的判断に基づき先進的な活動、環境保護事業、再生可能エネルギーの開発。

見える部分に注目しても意味がない

- デンマークの医療・福祉・教育など、その制度や取り組みをモデルとして日本に導入するとしても、たんに見える部分に注目しても意味がないことである。
- むしろ制度や取り組みの中身を充実・発展させた考え方や思想、すなわちデンマークの社会を支える民主主義や精神基盤といった目に見えない部分に注目することが必要である。
- そこで学んだもの、そこから得たものを日本の福祉の発展充実を実現するためのもののように生かし、工夫していくのが今後の課題である。

苦難の時代そして植林による復興 (デンマルク国の話)

- プロシア戦争(1862年):オーストリア・プロシア連合軍にデンマークが敗れ、豊かなホルシュタインとシュレスビヒを失う大打撃を受け、以後中立主義を守る努力を重ねた。
- 苦難の時代にダルガス父子の植林運動:
「外で失ったものを内で取り戻そう」というスローガンを掲げ植林で国を復興させた。
内村鑑三先生の「デンマルクの話-信仰と樹木とをもって国を救いし話」に紹介されている。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 総 務 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

■ ■ ■ ■ 第 1 回岩手郡医師会総務会 ■ ■ ■ ■

日 時：平成21年4月7日(火)
19:00～20:00

出席者：及川忠人、篠村達雅、栃内秀彦、
紺野敏昭、高橋邦尚

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

報告事項及び議事事項

- (1) 平成21年度年間行事予定について
- (2) 盛岡圏域新型インフルエンザ対策連絡会議
- (3) 第1回盛岡圏域新型インフルエンザ医療体制検討専門部門
- (4) 岩手県医師会勤務医部会・病院部会合同講演会
- (5) 平成20年度岩手県主治医研修会
ア. いきいきプラン2009～2011について
イ. 少子高齢化社会における医療・介護提供体制のあり方について
- (6) 新入会員について
4月1日入会 村田 深雪 先生 (いわてリハビリセンター)
 鈴木 俊彦 先生 (東八幡平病院)

■ ■ ■ ■ 岩手郡医師会「臨時拡大総務会」 ■ ■ ■ ■

日 時：平成21年5月14日(木)
19:00～

出席者：及川忠人、篠村達雅、栃内秀彦、紺野敏昭、
高橋邦尚、西島康之、佐々木久夫

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

議事事項

- (1) 新型インフルエンザ対策について
- (2) その他

■■■■ 第2回岩手郡医師会総務会 ■■■■

日 時：平成21年6月2日(火)
19:00～20:00

出席者：及川忠人、篠村達雅、栃内秀彦、
紺野敏昭、高橋邦尚

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

報告事項

- (1) 平成21年度盛岡保健医療圏・地域医療に関する懇談会（5月25日）
- (2) 新型インフルエンザへの対応
 - ① 岩手郡医師会臨時拡大総務会（5月14日）
 - ② 岩手県医師会新型インフルエンザ対策会議（5月20日）
 - ③ 盛岡医療圏新型インフルエンザ研修委員会（5月25日）
- (3) 特定健診説明会について
 - ① 滝沢村（5月12日）
 - ② 八幡平・葛巻町（5月22日）
- (4) 岩手郡医師会監事会について（5月28日）
- (5) レセプトオンライン請求完全義務化への「対応指針」について
- (6) 特定健診機関の請求事務代行の手続きについて
- (7) その他（日本医師連盟と岩手県医師連盟の合同会議）

協議事項

- (1) 平成21年度岩手郡医師会第1回通常総会について（6月2日）
- (2) 新型インフルエンザへの対応について
- (3) 第61回岩手県医師会親睦野球大会参加について（8月23日）

■■■■■ 岩手郡医師会拡大総務会 ■■■■■

日 時：平成21年8月4日(火)
19:00～

出席者：高橋牧之介、西島康之、佐々木久夫、
篠村達雅、栃内秀彦、紺野敏昭、
高橋邦尚、及川忠人

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

県央保健所：六本木所長、白沢課長

報告事項

- (1) 第161回岩手県医師会臨時代議員について（6月20日）
- (2) 岩手県医師連盟代表者会について（6月20日）
- (3) 岩手県医師連盟緊急執行委員会について（7月25日）

協議事項

- (1) 公益法人移行の方法について
- (2) 医師連盟活動（総選挙対応）について
- (3) 社会保険医療担当者研修会（集団指導）について（8月7日）
- (4) 日本医師会連盟と岩手県医師会連盟の合同会議参加について（8月8日）
- (5) 第61回岩手県医師会親睦野球大会について（8月23日）
- (6) その他（新型インフルエンザ対策について）

■■■■ 岩手郡医師会第2回拡大総務会 ■■■■

日時：平成21年9月29日(火)
19:00～

出席者：西島康之、佐々木久夫、篠村達雅、
栃内秀彦、紺野敏昭、高橋邦尚、
及川忠人

場所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

県央保健所：六本木所長、白沢課長、森係長

報告事項

- (1) 岩手県医師会親睦野球大会（8月23日）
- (2) 地域医療懇談分科会（9月9日）
- (3) 第63回東北医師連合会総会並びに学術大会（9月12・13日）
- (4) 地域医療・救急蘇生法研修会について（9月19日）
- (5) 救急医療対策協議会・医療講演会について（9月25日）

協議事項

- (1) 新型インフルエンザ対策（外来診療体制の拡充）について
- (2) 新型インフルエンザワクチン接種（情報提供）について
- (3) 岩手郡糖尿病対策推進会議「学術講演会」（10月15日）
- (4) 岩手郡医師会産業医実施研修会（10月17日）
- (5) 第4回岩手郡医師会役員会（案）について（10月20日）
- (6) 岩手郡医師会役員選出委員会設置について

■■■■ 岩手郡医師会臨時総務会 ■■■■

日時：平成21年12月3日(木)
19:00～

出席者：及川忠人、篠村達雅、栃内秀彦、
紺野敏昭、高橋邦尚

場所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

協議事項

- (1) 岩手郡医師会臨時総会・講演会・忘年会の役割分担について
- (2) 第1回岩手郡医師会役員選出委員会（11月7日）について
- (3) 医療安全・医療事故防止講習会（11月12日）伝達講習について
- (4) 今後の予定について

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 役 員 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

■ ■ ■ ■ 第 1 回岩手郡医師会役員会 ■ ■ ■ ■

日 時：平成21年4月21日(火)
19:00～

場 所：ホテルニューカーリーナ
2階 シルキー

出席者：高橋 孝、西島康之、及川忠人、
篠村達雅、柄内秀彦、佐々木久夫、
久保谷康夫、森 茂雄、高橋邦尚、
高橋 明、紺野敏昭、遠藤哲夫、
高橋 真、植田 修

報告事項及び議事事項

- (1) 平成21年度岩手郡医師会年間行事予定について
- (2) 盛岡圏域新型インフルエンザ対策連絡会議（1月26日）
- (3) 岩手県医師会勤務医部会・病院部会合同講演会（3月7日）
- (4) 平成20年度岩手県主治医研修会（3月21日）
 1. いきいきプラン2009～2011について
 2. 少子高齢化社会における医療・介護提供体制のあり方について
- (5) 第1回盛岡圏域新型インフルエンザ医療体制検討専門部会（3月25日）
- (6) 第1回郡市医師会会長会議（4月11日）
- (7) 特定健診実施機関について
- (8) 盛岡医療圏の結核病棟確保に関する要望書の提出について
- (9) 新入会員について（4月1日） 鈴木 俊彦 先生（東八幡平病院）
村田 深雪 先生（いわてリハビリセンター）
- (10) インフルエンザPPEキットの配布について（救急予算）
（病院8 医院53 老健5）66施設 約110万円

■ ■ ■ ■ 第 2 回岩手郡医師会役員会 ■ ■ ■ ■

日 時：平成21年6月9日(火)
19:00～

場 所：ホテルニューカーリーナ
2階 サンクル

出席者：高橋 孝、西島康之、及川忠人、
篠村達雅、柄内秀彦、佐々木久夫、
久保谷康夫、森 茂雄、山口淑子、
高橋邦尚、高橋 明、紺野敏昭、
遠藤哲夫、高橋 真、植田 修

報告事項

- (1) 平成21年度盛岡保健医療圏・地域医療に関する懇談会（5月25日）
- (2) 新型インフルエンザへの対応について
 - ① 岩手郡医師会臨時拡大総務会（5月14日）
 - ② 岩手県医師会新型インフルエンザ対策会議（5月20日）
 - ③ 盛岡医療圏新型インフルエンザ研修委員会（5月25日）
- (3) レセプトオンライン請求完全義務化への「対応指針」について
- (4) 特定健診機関の請求事務代行の手続きについて
- (5) 第61回岩手県医師会親睦野球大会参加について
- (6) 岩手県医師連盟執行委員会（6月6日）

協議事項

- (1) 平成21年度第1回岩手郡医師会通常総会の役割分担等について
- (2) 平成21年度第1回通常総会特別講演について
- (3) 平成20年度一般会計、休祭日会計、特別会計の決算（案）について
- (4) 監事会：会計監査報告等について
- (5) 各部会報告等について
- (6) 新型インフルエンザへの対応について

■■■■ 第3回岩手郡医師会役員会 ■■■■

日時：平成21年8月18日(火)
19:00～

場所：ホテル東日本
4階 椿の間

出席者：高橋牧之介、高橋 孝、西島康之、
及川忠人、篠村達雅、栃内秀彦、
佐々木久夫、森 茂雄、山口淑子、
高橋邦尚、高橋 明、紺野敏昭、
遠藤哲夫、高橋 真、植田 修

報告事項

- (1) 第161回岩手県医師会臨時代議員会について（6月20日）
- (2) 岩手県医師連盟代表者会について（6月20日）
- (3) 岩手県医師連盟緊急執行委員会について（7月25日）
- (4) 第2回郡市医師会長協議会（8月8日）
岩手県医師連盟執行委員会（8月8日）
日本医師連盟並びに岩手県医師連盟合同会議について（8月23日）

協議事項

- (1) 公益法人移行の方向について
- (2) 新型インフルエンザの診療体制について（県央保険所の説明要旨）
- (3) 第61回岩手県医師会親睦野球大会への参加について（8月23日）

■■■■ 第4回岩手郡医師会役員会 ■■■■

日時：平成21年10月20日(火)
19:00～

場所：ホテルニューカーリーナ
2階 シルキー

出席者：高橋 孝、西島康之、及川忠人、
篠村達雅、栃内秀彦、佐々木久夫、
久保谷康夫、森 茂雄、山口淑子、
高橋邦尚、高橋 明、紺野敏昭、
高橋 真、植田 修

報告事項

- (1) 岩手郡医師会救急蘇生法研修会（葛巻町）（9月19日）
- (2) 救急医療対策協議会・医療講演会（9月25日）
- (3) 県保健所との協議（外来診療体制の拡充について）
- (4) 上記協議に係る患者急増時の体制について
- (5) 新型インフルエンザに関する経過（県医師会からの通知）
- (6) 新型インフルエンザワクチン医療機関別配布数量について
- (7) 新型インフルエンザワクチン接種に係る受託機関（老健・特養）の調査

協議事項

- (1) 新型インフルエンザワクチンの接種に関する事業実施要綱（案）について
- (2) 新型インフルエンザワクチン接種実施要領（案）について
- (3) 公益法人への移行に関する協議について
- (4) 岩手郡医師会役員選出委員会設置について
- (5) その他（岩手郡医師会の活動経過と今後の予定）

■ ■ ■ ■ ■ 各種行事報告 ■ ■ ■ ■ ■

第61回岩手県医師会親睦野球大会報告

■ 日 時：平成21年8月23日(日)

■ 場 所：矢巾中学校

毎年医師会野球が終わると、来年こそは十分に体を鍛えて試合に臨もうと思うのだが、実行したためしはない。今回の大会に向けての全体練習前には結局なにもしなかった。

大釜の河川敷グラウンドを借りての1回目の全体練習は雨で中止。2回目は良く晴れて暑かった。参加者は高橋 真、立本、荒井、北上先生、岩手郡医師会事務局の大田さん、平野さんと私の7名。経験のない私達でしたので、大田さん、平野さんにコーチを御願いし、何とか練習の形が整った。(大田さん、平野さんは心配してきてくださったようです) キャッチボールから始まり、バッティング練習、最後は守備練習となった。大田さん曰く、今日参加された先生たちで守備を固めたら何とか試合になる、との言葉で内野守備練習が開始された。大田コーチの鬼のノックが始まった。最初はなんとかなると思っていたが段々と足がもつれて、思うように体が動かない、息も上がってくる。まだまだ、もう一本という大田コーチの声が聞こえるがもう一本で終わることはない。途中で、我々は高校球児?と錯覚する程だった。やっと終わっ

たが、大田コーチからもう1日練習をしたほうがいいんじゃないですかとのご提案があり、全員一致し再度練習することになった。やはりみんな高校球児になってしまったようだ。2度目の練習もノックの嵐ではあったがなんとかやりぬき、好プレーもできるように気分は爽快であった。

いよいよ本番当日、紫波郡医師会の担当で、会場は矢巾中学校であった。天気は晴朗、やる気は満々。相手は奥州市医師会。メンバーは北上(ピッチャー)、高橋邦高(キャッチャー)、久保谷(ファースト)、島(セカンド)、大森(ショート)、立本(サード)、荒井(レフト)、植田(センター)、上原(ライト)の9戦士。ジャンケンに勝ち、先攻を選択し逃げ切りを図る作戦ではあった。1回表、相手ピッチャーの球は速く、コントロールも良く3者凡退に終わった。1回裏、猛攻を受け得点を許した。その後は奥州市医師会のバッティングが好調で打たれはしたが、練習の成果がみられ守備では好プレーが随所にみられた。奮闘むなしく結果は0対9の3回コールド負けとなった。

今年の大会も終わり次回は北上での開催とのこと。皆様お疲れさまでした。応援に来てくださった先生方、練習にお手伝いいただいた大田さん、平野さんに感謝申し上げます。

(報告者 植田 修)



平成21年度雫石町総合防災訓練

1. 目的

地域住民と町職員、消防・医療機関のほか関係機関が一体となった実践的な訓練を実施し、併せて地域住民の防災意識の高揚を図ること。

2. 訓練実施日時

平成21年9月6日(日)
午前7時10分～午後0時30分

3. 訓練実施場所

- [第1会場] 雫石町役場庁舎
- [第2会場] 西山運動場とその周辺
- [第3会場] 篠崎・上西根地域公民館
- [第4会場] 雫石ゴルフ場
- [第5会場] 岩手高原スノーパーク
- [第6会場] 西山構造改善センター

4. 主催 雫石町

5. 共催 雫石町消防団

6. 訓練参加及び協力機関

岩手県防災航空隊、盛岡西消防署雫石分署、雫石町婦人消防協力隊、西山地区自主防災会、岩手郡医師会、雫石町医療団、雫石町社会福祉協議会、日本赤十字社岩手県支部雫石町分会、雫石町赤十字奉仕団、NPOしずくいし、(株)アクティオ、(社)岩手県高圧ガス保安協会盛岡支部、岩手県石油商業協同組合盛岡支部、NTT東日本岩手支部

7. 訓練参加人員 700人

8. 訓練実施項目

実施項目は16あるが、傷病者トリアージ訓練について報告。傷病者10名に対し、トリアージを実施（大森、篠村）。上原、久保谷、秋山、各先生も参観。昨年雨の中での訓練となり、トリアージタグが濡れ、ボールペンでの記入が出来なかったため油

性マジックを準備したが、三枚複写のため無理だった。

☆訓練後懇談会（於：青湖苑）

雫石町：町長、副町長、教育長、等7名
盛岡西消防署雫石分署：分署長等5名
医師会：及川郡医師会長、上原、大森、秋山、篠村（五）、篠村（達）

医師会が訓練に参加して3回目となった。行政、消防、医師会の意見交換が出来る事は災害時、電話のむこうの顔が見える事で、実務がスムーズに行くと思われる。情報の発信は役場総務課が主体となり一元化する必要がある。DMATの件。どこで何が必要となっているかの情報収集の件。災害発生直前、危険地域住民への緊急連絡方法として携帯電話のメール使用の件。新型インフルエンザ等々話題となった。

（報告者 篠村 達）

平成21年度産業医師会活動報告

(1) 平成21年度岩手郡医師会産業医実地研修会

今年度の岩手郡医師会産業医実地研修会は平成21年10月17日(土)に八幡平市アステラス東海株式会社 西根工場で開催されました。毎年連休と重なりご迷惑をおかけしていたようでしたが今年度は連休と重ならず



良かったと思っております。

参加者は今まで一番多く48人で県内各地から、お集りいただきました。

午後2時より始まりました。

及川会長の挨拶があり

『産業疲労について』の演題で講師は岩手大学保健管理センター教授 立身 正信先生の講演が1時間ありました。

お話はわかりやすくスライドをまじえ興味深く拝聴させていただきました、とくに疲労についてタンクの水の出、入りで説明された図が印象的でした。

その後4班に分かれて工場見学があり4時半で終了しました。

参加された先生方、紅葉のさなかお疲れさまでした。

また医師会事務局の方、アステラス製薬の方ありがとうございました

(2) 第67回(岩手県)産業医師会幹事会



平成21年11月7日 岩手県医師会館 中会議室で上記会議がありました、会議に前後して大ホールでは新型インフルエンザの講演が2題ありました、医師会館はかなり賑やかでした。

この会では各郡市医師会の幹事が自分の産業医活動の報告をし、平成22年3月に日本医師会産業保健委員会に提出する産業保健委員会答申書を作成しました。

(報告者 森 茂雄)

盛岡地区二次救急医療体制30周年記念式典 並びに 白井康雄氏 救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞 祝賀会

主催：盛岡市医師会・盛岡地区二次救急医療対策委員会

白井康雄氏の「救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を祝う会

日時：平成21年11月26日(木) 午後7時

場所：グランドホテル

出席者：岩手県保健福祉部長、盛岡市、矢巾町、八幡平市、岩手町、葛巻町、滝沢村、雫石町の行政関係者、消防本部、各消防署の関係者、岩手県医師会、盛岡市医師会、岩手医大医師会、紫波郡医師会、岩手郡医師会、二次救急病院群11病院、小児救急病院群5病院の関係者等100名

式辞：盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長 盛岡市医師会会長 白井康雄先生

祝辞：盛岡市長 谷藤裕昭様(代理)
岩手医科大学理事長 大堀勉先生

全国に先駆けて昭和54年12月1日盛岡地区二次救急医療体制発足。

9病院にて輪番制を実施。

平成11年4月1日小児救急病院輪番制を7病院にて実施。

先般の救急医療学会において救急医療体制は盛岡方式が目標と結論された。

諸先輩の先見の明、努力に感謝し、今後ともさらなる充実をはかるとの事。

次いで祝賀会に入った。

学会・研究会等報告

第17回 岩手県北周産期研究会（2009年7月7日）

この研究会は毎年開催されており今回で17回目になります。年ごとに厳しくなっていく周産期医療をどうにかしようと集まっています。

今年は「県北のお産の現状」と題して、県立二戸病院の秋元義弘先生の講演がありました。要約を報告します。

（文責 塚谷栄紀）

1. 全国で見ると産婦人科医 300人／年（1990年）から200人／（2004年）に減少した。
2. 岩手県においては、平成15年 43人（20～40代）38人（60代～）であったが、平成21年には 35人（20～40代）46人（60代～）と、高齢化が進んでいる。
3. 県北の周産期体制の現状
二戸地区
二戸病院 産婦人科医 4人、小児科 2人
齊藤委員 1人
久慈地区
久慈病院 産婦人科 1人、小児科 2人
竹下医院 1人
岩手町地区
塚谷医院 1人
4. 県北の産婦人科体制
久慈病院—ハイリスク症例、手術必要症例は二戸病院へ（久慈から二戸まで1.5時間）
二戸病院—岩手県北、青森県南の産婦人科救急に対応
5. 二戸病院の状況（20.10.1～21.4.30）
紹介、搬送入院 123／533（総入院）22.2%
母体搬送総数 17／280（分娩）
6. 緊急連絡体制をとってからの母体死亡など重大な症例はおきていない。
7. 県北の産婦人科勤務医、開業医あわせても17人である。そしてその守備範囲は広さでいえば、東京（習志野、市川）、千葉の一部、さいたまの一部、横浜市の一部に匹敵する。
8. この広さを守るため、岩手県周産期ネットワークシステムを導入し、質の高い妊娠、分娩ケアの選択肢として助産師外来、院内助産へむけ努力中であり、また可動している。

第21回東北学校保健・学校医大会（2009年9月5日）

今回は福島県医師会の当番で、福島市で開催されました。そして「学校における食と健康」というテーマでシンポジウムが催され、岩手県からは山口淑子がシンポジストに指名され、岩手県の肥満児の割合が全国1になったこと、そして県央保健所管内、

特に岩手県医師会のお膝元、葛巻町 八幡平市、岩手町に多いことをうけての県央保健所での取り組みの紹介、そして葛巻町学校保健会の取り組みと成果等を発表しました。発表原稿そのものをパワーポイントとともに掲載します。（文責 山口淑子）

(1)

私は学校医として、また地域の小児科医としてこれまで小中学校で、「性と生に関する授業」や「心の健康教育」等を行ってきました。しかし食育についての相談も講演依頼もありませんでしたし、口出すこともしませんでした。このことについては納得できる面も多々あります。

あるとき岩手県医師会会長から「子どもの健康づくり推進協議会の委員に」というお話があり、お受けすることになりました。これが「メタボ予防いきいきキッズ大作戦」、子どものころからの正しい生活習慣を身に付け、生涯を通じた健康生活を続け、メタボリック・シンドローム予防活動の定着と家庭・学校・地域社会の連携による健康づくりを推進することを目的にした委員会でした。

(2)

岩手県では平成16年、全国に先駆けて「いわて食っ子ネットワーク事業」を立ち上げました。これは県知事の命により保健福祉・農林・教育の連携事業として始められ、これに市町村・食育団体、医師会、歯科医師会等が加わり、盛岡地域いわて食っ子ネットワーク会議及び食育研修会が開催されることになりました。平成18年2月、岩手の特性を生かした食育の推進をめざし、岩手県食育推進計画が策定され、それを受

け各市町村においても計画策定がすすんでいっております。この間、国においては平成17年6月に食育基本法が公布され、18年3月には食育基本計画が決定されました。

(3)

食育基本法には、「食育とは」ということで画面に書いてあるとおりです。健康で文化的な国民の生活や豊かで活力のある社会を実現するため、国民が食の安全性や栄養・食文化などの「食」に関する知識と「食」を選択する力を養うことにより、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」とされています。

(4)

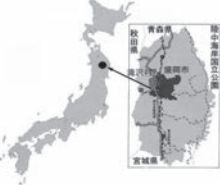
そして食育基本計画では「地域や社会を挙げた子どもの食育、生活習慣病等の予防、高齢者の健全な食生活や楽しく食卓を囲む機会の確保、食品の安全性の確保と国民の理解の増進、食料自給率の向上、伝統ある食文化の継承等が必要である」とされており、そして「平成18年から22年までの5年間を、対象とする基本計画に基づき、国民運動として食育に取り組み、国民が生涯にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現を目指す」とされており、

平成18年岩手県生活習慣病等実態調査においては、男性40～74歳におけるメタボリック・シンドロームの該当者および予備

(1)

第21回東北学校保健・学校医大会シンポジウム
「学校における食と健康」

小学校における食育の現状と考察



岩手県医師会学校医部会 幹事
山口 淑子
(山口クリニック)

(2)

「メタボ予防いき？キッズ大作戦」 取り組みの経過



2007年度：「メタボ予防いき？キッズ大作戦」開始
2008年度：「メタボ予防いき？キッズ大作戦」継続
2009年度：「メタボ予防いき？キッズ大作戦」継続
2010年度：「メタボ予防いき？キッズ大作戦」継続

(3)

食育とは

現在及び将来にわたり、健康で文化的な国民の生活や豊かで活力ある社会を実現するため、さまざまな経験を通じて国民が食の安全性や栄養、食文化などの「食」に関する知識と「食」を選択する力を養うことにより、健全な食生活を実践することができる人間を育てること（食育基本法より）

(4)

食育推進の重要性

● 食育推進基本計画 平成18年3月決定
「食育基本法 平成17年6月公布 7月施行」

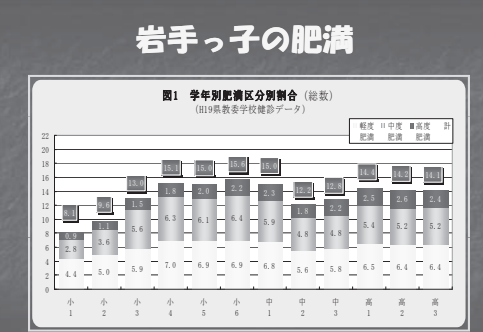
地域や社会を挙げた子どもの食育をはじめ、生活習慣病等の予防、高齢者の健全な食生活や楽しく食卓を囲む機会の確保、食品の安全性の確保と国民の理解の増進、食料自給率の向上、伝統ある食文化の継承等が必要である。

平成18年から22年までの5年間を対象とする基本計画に基づき、国民運動として食育に取り組み、国民が生徒にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現をめざす。

(5)

岩手っ子の肥満

図1 学年別肥満区分割合（総数）
(1119名調査各中学校健診データ)



学年	肥満率 (%)	肥満率 (%)
小1	4.4	2.8
小2	5.0	3.6
小3	5.9	5.6
小4	7.0	6.3
小5	6.9	6.1
小6	6.9	6.4
中1	6.8	5.9
中2	5.6	4.8
中3	5.8	5.4
中1	6.5	5.4
中2	6.4	5.2
中3	6.4	5.2

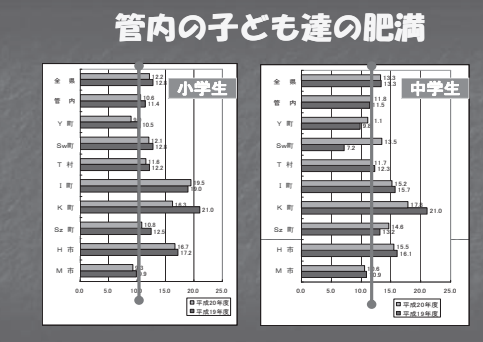
(6)

岩手県の全国1位！?

肥満	男子		女子		学習	中学3年	小学6年
	年齢	体重kg	順位	体重kg		順位	%
幼稚園	5	19.7	2	19.1	4		
小学校	6	22.3	3	21.7	3	40.1	1
	7	25.1	4	24.6	2		
	8	28.7	3	28.0	2		
	9	32.3	5	31.7	3		
中学校	10	36.5	1	36.1	3	16.0	2
	11	40.3	6	41.4	2		
	12	47.0	2	46.1	3		
高等学校	13	50.9	5	48.8	3		
	14	56.1	7	51.9	3		
	15	60.7	9	53.5	4	17.2	13
	16	63.3	3	54.7	3	13.5	3
	17	65.1	5	55.2	1		

(7)

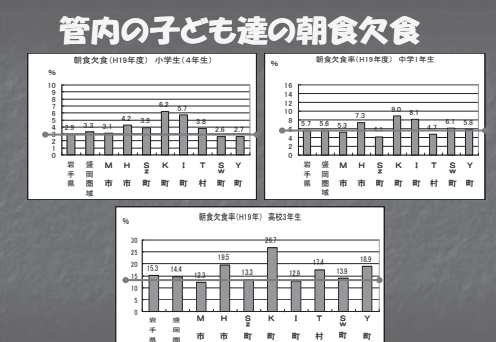
管内の子ども達の肥満



小学生 (4年生) / 中学生 (1年生)

(8)

管内の子ども達の朝食欠食



朝食欠食率 (H19年度) 小学生 (4年生) / 朝食欠食率 (H19年度) 中学生 (1年生) / 朝食欠食率 (H19年) 高校3年生

軍は47.2%と高値でありました。

(5)

平成19年度に実施した県内の小・中学生の定期健康診断のデータでは、小学校6年生男子の肥満は15.6%と全国に比べて4.5ポイントも高く他の各学年も同様であるなど、岩手県は全国一の肥満傾向にある県である。

(6)

10歳の平均体重は全国一であること、そこにテレビ視聴時間も全国一であるという調査結果に驚き、重視する視点がメタボ対策となり、メタボリックシンドローム1割削減地域運動事業、盛岡地方メタボリックシンドローム予防委員会が立ち上げられました。

(7)

これは私の所属する岩手郡医師会、そこを管轄する岩手県央保健所管内の肥満傾向児童生徒割合を市町村別に、平成19年と20年を比較したものです。T村、I町、K町、S_z町、H市、この5市町村が岩手郡です。I町、K町、H市が特に肥満児の多い地域となります。しかし19年に比べ20年度はH市とK町、特にK町は21.0%から16.3%と肥満児の割合が減少しております。

(8)

同じ管内の子供たちの朝食欠食の割合です。やはりK町、I町、H市で高くでています。

(9)

20年度の盛岡地域メタボリック・シンドローム予防委員会で話し合われた課題から岩手県央保健所は、生涯を通じた健康生活を続け、メタボリック・シンドローム予防活動の定着と、家庭・学校・地域社会の連携による健康環境づくりを推進する目的で「メタボ予防いきいきキッズ大作戦」事業を21年度に導入することにしたのです。

(10)

そこで岩手県央保健所の市町村が県平均を大きく上回っていることから、管内の医師会、歯科医師会、教育委員会等との連携でこの大作戦を岩手郡医師会のおひざもとで開始することになったのです。まず子どもの健康づくり推進協議会を立ち上げ、この委員に岩手郡医師会学校保健担当の私が委嘱されたというわけです。盛岡圏域の小学5、6年生全員と希望する学童約8,500人に「いきいきキッズ健康シート」を活用し健康習慣の定着を図る。H市K町、I町の小学校を対象としていきいきキッズ健康講座を開く。メタボリックシンドローム予防の普及啓発としてシンポジウムの開催、啓発カレンダー作成 という4つの大作戦を現在進行中です。

(11)

これがいきいきキッズ健康シートです。「ブレスローの7つの健康習慣」を基本としています。カリフォルニア大学のブレスロー博士の様々な生活習慣と身体的健康度（障害、疾病、症状やバイタリティーの有無など）とのかかわりの調査より、7つの健康習慣が健康度と有意に関連していることを提唱したのです。

- 1、適正な睡眠時間（7～8時間）
- 2、喫煙しない
- 3、適正体重を維持する
- 4、過度の飲食をしない
- 5、定期的にかなり激しい運動をする
- 6、朝食を毎日とる
- 7、間食をしない

これら7つの健康習慣を守っている人は約60歳くらいまで平均以上の健康度を保っていることに対し、2個以下の人では、30歳を過ぎるとすでに健康度は平均以下になってしまったことがわかったのです。この調査結果を参考にこの表を作成し、活用

(9)

「メタボ予防いき2キッズ大作戦」 事業導入の課題整理

区分	項目	重要課題
2019年度 盛岡地域メ タボリックシ ンドローム予 防委員会等 連携をされた 課題	健康づくり	①ほんの心も体も健康が大切。伝統的な食文化を軸にせよ。 ②運動習慣の育成とそれを継続にする環境づくりが必要 ③肥満予防が重要ではないか。 ④健康な食生活が大切だが、関係者の思いが違い ⑤関係団体等調整する機関が必要 ⑥子どもの健康に関する関係団体の連携と協働が大事 ⑦学校、家庭、PTA、児童会の連携の強化
	生活リズム	①「健康増進法」に「ほんの心も体も健康」の言葉 ②分かりやすい教材を開発してほしい ③分かりやすい言葉で伝えたい ④生活リズムの大切さを伝える手はかみ等の目や口ばるる学習 ⑤保護者を対象とした家庭での指導の場がほしい ⑥健康な食生活の大切さを伝える場がほしい ⑦イベントの企画・実施による関係者への啓蒙
教育教材	食生活指導	①必要な食事を伝える手はかみ等の目や口ばるる学習 ②保護者を対象とした家庭での指導の場がほしい ③健康な食生活の大切さを伝える場がほしい ④イベントの企画・実施による関係者への啓蒙
	運動指導	①小学生の運動の楽しさを伝える場がほしい ②健康な食生活の大切さを伝える場がほしい ③イベントの企画・実施による関係者への啓蒙
スキルアップ	メタボリックシンドローム	①地域人を対象とした食生活指導が必要 ②健康増進プログラムを指導者としてスキルアップしたい ③健康増進プログラムの開発と同時にカウンセリングも重要 ④健康増進プログラムの開発と同時にカウンセリングも重要 ⑤健康増進プログラムの開発と同時にカウンセリングも重要
	メタボリックシンドローム	①健康増進プログラムの開発と同時にカウンセリングも重要 ②健康増進プログラムの開発と同時にカウンセリングも重要 ③健康増進プログラムの開発と同時にカウンセリングも重要
その他		④メタボリックシンドロームの普及啓蒙 ⑤啓発カレンダー作成 ⑥啓発カレンダー作成

(11)

食生活チェック表

さんの食生活チェック

月～月 連続的に行うことで効果的です

1	早起きができましたか？	
2	8時間以上お風呂ができましたか？	
3	食事のあいさつはきちんとできましたか？	
4	朝ごはんはしっかり食べましたか？	
5	汗ばむくらい完全に汗をかきましたか？	
6	おやつは時間を決めて食べましたか？	
7	好き嫌いなく何でも食べていますか？	
8	食べたあとは歯みがきをしましたか？	
9	お料理・おそうじのお手伝いをしましたか？	
10	家族そろって食べましたか？	

(13)

心身の健康状態を高めるための生活習慣 確立におけた指導はどうあればよいか

朝食指導と自己肯定感の関係～

葛巻町学校保健会

(15)

2 実態調査

1) 調査方法

	調査対象	回答者数	調査期間
平成18年度	葛巻町内 小学校5・6年 中学校 1・2・3年	374名	10月16日 ～25日
平成20年度	葛巻町内 小学校5・6年 中学校 1・2・3年	307名	6月中旬 ～下旬

2) 調査項目
①睡眠 ②朝食 ③夕食④毎日の食生活 ⑤生活の様子
⑥親や友達との関係 ⑦自分について

(10)

メタボ予防いき2キッズ大作戦

盛岡地方振興局 地域振興推進事業

1 子どもの健康づくり推進協議会	医療・保健・教育・農林・民間ボランティア等28団体
2 「いき2キッズ健康シート」の活用による健康習慣の定着(7日間×2回)	盛岡圏域の小学5・6年生全員と希望する学童約8,500人
3 いき2キッズ健康講座	八幡平市1小学校 葛巻町5小学校 岩手町4小学校
4 メタボリックシンドローム予防の普及啓蒙	①シンポジウムの開催 ②啓発カレンダー作成

(12)

岩手っ子を肥満にしないために

- 基礎代謝量をあげる生活習慣の定着
運動好き、きびきび動く子
- 食事の適量を教える
基本となるご飯をしっかり食べられる子
- 組合せて食べる文化
偏食しない何でも食べられる子
- 家庭、学校、地域の共通理解
関係者の役割分担

(14)

酪農家の朝は早い・・・

牛の世話にあわせた生活・・・

(16)

3) 平成18年度の調査結果

図1 H18 普段朝食を食べますか
n=374

朝食の状況	割合 (%)
毎日食べる	75
食べる日が多い	15
食べる日が少ない	5
ほとんど食べない	5

することにしました。

(12)

岩手県では「岩手っ子を肥満にしないために」ということで乳幼児期から大人まで継続し、地域との連携のもと遂行しており徐々に結果が出てきております。

(13)

ここで岩手郡葛巻町学校保健会での活動をご紹介します。

養護教諭の先生方が「葛巻町児童生徒に、元気がない・自分のことがなかなか話せない・仲間づくりや人付き合いの悩み・ストレスからと推測される身体的な訴えなど日常生活で気がかりな様子がみられたこと。さらに、文部科学省の全国調査「心の健康得点が高いほど朝食を食べなかったものが少ない」という点に着目し、生活習慣が心身の健康にどのくらい影響しているかの実態調査研究を平成18年からはじめました。そして「朝食を中心とした生活スタイルが確立されれば、楽しい学校生活を送れるのではないだろうか。」と考え実践してきております。

(14)

葛巻町は酪農農家が多く、朝早くからの作業、そして牛にあわせた生活が基本です。平成18年度の取り組みは実態を把握するためのアンケート調査です。

(15)

調査は葛巻町内の小学校4校5、6年生、中学校3校の1、2、3年生374名です。調査項目は①睡眠、②朝食、③夕食、④毎日の食生活、⑤生活の様子 ⑥親と友達との関係 ⑦自分についてです。

(16)

調査結果です。「普段朝食を食べますか？」の設問です。

毎日食べるが77% 食べる日が多いが13.7% 食べない日が多いが7.2% ほとん

ど食べないが2.1%でした。「朝食を子供だけで食べますか」という設問の答えです。よくあるが28.1% 時々あるが14.4%でした。酪農家の宿命でしょうか。

(17)

朝食摂取と「元気かどうか」との関係です。朝に元気がない、目覚めが悪いという児童は55%で、この訴えと朝食摂取の関係をみるとやはりほとんど食べない子の75%、食べない日が多い子の59.3%が元気がないようです。朝食を毎日とる子には20.1%であった。

(18)

学校が楽しくないと答えた子は21.1%で、それと朝食摂取についての関係をみると、朝食をとる子では18.8% 食べない子では40%に学校が楽しくないと答えています。

(19)

このほかたくさんさんの調査がなされましたが、これらの結果より葛巻町の児童・生徒の健康度を高め、より充実した学校生活を送るためにめざす児童生徒像を具体的に「早起き 朝ごはん につこり元気 はつらつ挨拶で学校が楽しい」とおきました。平成19年度からは葛巻町健康福祉課、給食センター、学校との連携の下、食生活改善推進協議会、からたちの会と連携し講演会・料理講習会を企画・運営しました。職員会議での養護教諭の情報提供などで教職員の問題意識も高まり、学校全体での取り組みそしてPTAでの継続した取組みに発展した学校もでてきました。

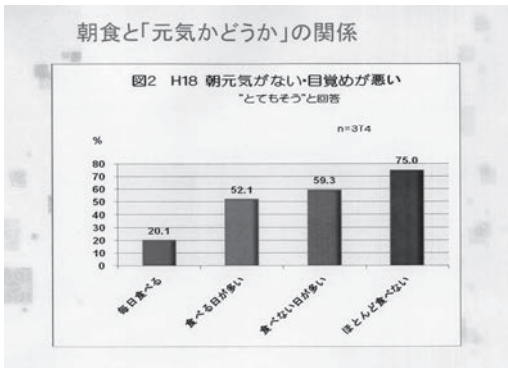
(20)

小学校では自己管理能力をつけさせるためのシート「朝げんき！カード」を用いました。

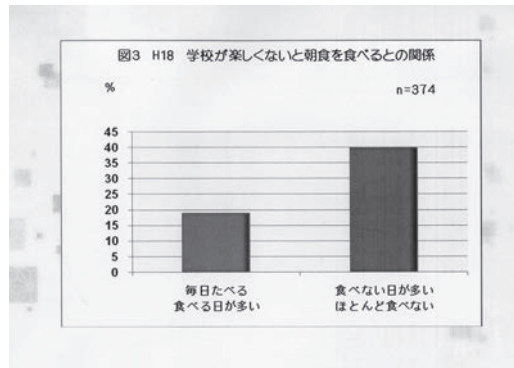
(21)

子どもの元気づくり講座 ① わいわい料理講習会の模様です。健康福祉課の栄養

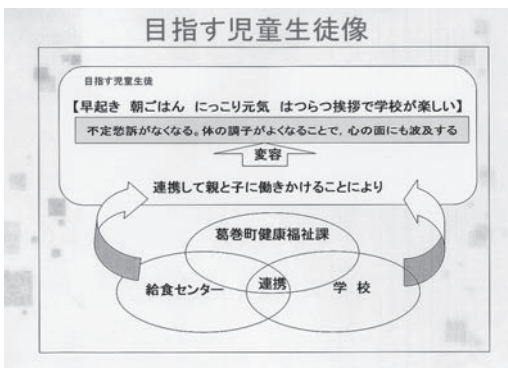
(17)



(18)



(19)



(20)

test test

朝げんき!カード

1. 朝ごはんを食べると、元気になりますか? (笑顔)

2. 朝ごはんを食べないと、元気がありませんか? (悲しい顔)

3. 朝ごはんを食べると、体が強くなりますか? (笑顔)

4. 朝ごはんを食べないと、体が弱くなりますか? (悲しい顔)

5. 朝ごはんを食べると、学校が楽しくなりますか? (笑顔)

6. 朝ごはんを食べないと、学校が楽しくありませんか? (悲しい顔)

	朝ごはんを食べると	朝ごはんを食べないと	朝ごはんを食べると	朝ごはんを食べないと	朝ごはんを食べると	朝ごはんを食べないと	朝ごはんを食べると	朝ごはんを食べないと	朝ごはんを食べると	朝ごはんを食べないと
元気になりますか?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
元気がありませんか?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体が強くなりますか?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体が弱くなりますか?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学校が楽しくなりますか?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学校が楽しくありませんか?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(21)

(2) 子どもの元気づくり講座①
～わいわい料理講習会～

健康福祉課の栄養士さんに
手軽にできる簡単朝食メニュー
を教えてくださいました。

愛情をかける
朝食をかさして

いろいろなお話が聞けて楽しかったです。
料理の仕方や工夫を教わり楽しかったです。
みそ汁のだしをとった後の昆布と鰹節を別のものに使うことが分かりました。
いつも作っているものも、調理法を変えたり、材料の組み合わせを変えたりするだけで、違った料理になるのでになりました。

(22)

子どもの元気づくり講座②
～食育講演会・愛レシピ会～

食生活改善推進協議会
からたちの会
葛巻町健康福祉課
江川地区PTA連絡協議会
江川地区学校保健会

たくさんの団体が
願いをひとつ
にして...

おさんが喜び「愛レシピ」募集します!

子どもからおうちの方へ
愛メッセージ

葛巻の郷土

雑穀・山菜・
山葡萄...

葛巻には
良い食材が
たくさん!

(23)

(3) 栄養教諭による朝食指導

朝食の大切さを
学習

今日の学習でわかったこと、
これからがんばりたいことを書きましょう。

朝食を食べると元気がよくなるので、
学校生活が楽しくなると思います。
朝食を食べないと、体が弱くなるので、
朝食を食べると、体が強くなると思います。
朝食を食べると、学校が楽しくなるので、
朝食を食べると、学校が楽しくなると思います。

今日の学習でわかったこと、
これからがんばりたいことを書きましょう。

朝食を食べると元気がよくなるので、
学校生活が楽しくなると思います。
朝食を食べないと、体が弱くなるので、
朝食を食べると、体が強くなると思います。
朝食を食べると、学校が楽しくなるので、
朝食を食べると、学校が楽しくなると思います。

(24)

(4) こころの健康の授業

エネルギー
トレーニング

児童の感想

あったかことばは、失敗しても次は頑張ろうという気持ちになる。本当にごめんねという気持ちになれる。

チクタクことばを言われると、一緒にやりたいくないと思う。そこまで言わなくてもいい。

今日、勉強で音楽を流して毛布にくるまってすごく気持ちよくなった。

いろいろなストレスの解決策があっぴょくりした。

士さんに手軽に出来る簡単朝食メニューを
教えていただきました。

(22)

講座 ② 食育講演会・愛レシピ会を食
生活改善協議会、からたちの会、役場
PTAと開催しました。地元の材料で郷土食
をつくる、子どもの喜ぶ料理を愛レシピと
して紹介するなどの行事をおこないました。

(23)

栄養教諭による朝食指導です。朝食の大
切さを教えております。

(24)

こころの健康の授業を行いました

(25)

葛巻町学校保健会の情報を町民まつり
で、保護者や地域に発信しました。

(26)

実践後の結果です。平成18年の調査と同
じアンケート調査を平成20年にも行いまし
た。同じ学年で調査しましたが回答者数は
307名と18年度より67名減少しています。

朝食を毎日食べる・食べる日が多い子が
増加しています。

(27)

また家を出るとき、見送ったり声をかけ
たりしてくれる人がいつもいる家庭も増え
ました。

(28)

悩み事を相談できるお友達も増えたよう
です

(29)

朝食と肩こり・だるい・疲れやすいとの関
係ですが、こういう症状のある児童では「毎
日食べる・食べる日が多い」より「食べな
い日が多い・ほとんど食べない」児童の方
が高値で、約8割の子が感じており、平成
18年との比較でも上昇しているという結果
です。やはり1日の心身の準備としての朝
食摂取は重要であるということは明確であ

ります。

(30)

葛巻町立葛巻小学校ではマイ弁当の日を
設け、親子でおにぎりを作りクラスのお友
達と食べる、おにぎりの次はお弁当とい
うこともやっています。これは岩手日報の記
事です。

(31)

前にお話しました肥満傾向児童の割合の
変化をもう一度提示します。このK町が葛
巻町であります。「朝から元気にスタート
するため」をかかげ朝食指導に力をいれ、
心理的にも良好な経過を収めている町での
肥満児童の割合が4.7%減少しております。

(32)

人口の少ない町ではありますが、養護教諭
が中心となって教職員、町役場の保健師、
栄養士そして保護者、地域の人たちが一緒
になって取り組んでいる食育事業、心身へ
の良好な影響そして肥満児童の減少してい
てはメタボリック・シンドローム予防など好
成績を挙げていると思います。医師の少な
い特に子どもに関わる医師のいない地域で
の立派な実践をお話しました。拍手を送り
たいと思います。

私たち学校医は健康、病気と栄養に関す
る医学的な知識をこどもや保護者にまた学
校教職員らに提供し、食・栄養の重要性を
認識してもらおう活動が役目かなと考えます。

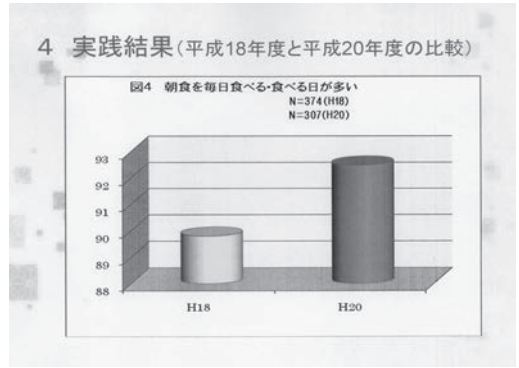
学校医は学校に行こうということで終わ
りたいと思います。

発表にあたり資料のご提供やアドヴァイ
ス下さった岩手県県央保健所の六本木所長
さん、沢口栄養主任さん、葛巻町学校保健
会の養護教諭の先生方に深謝いたします。
ありがとうございました。

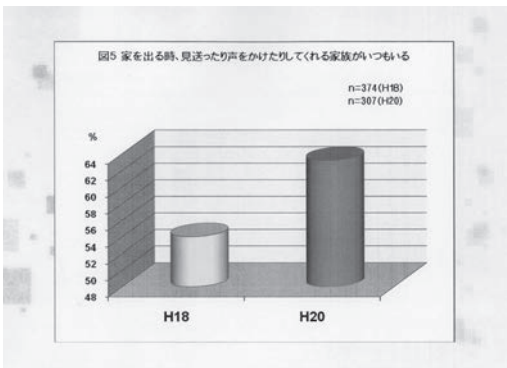
(25)



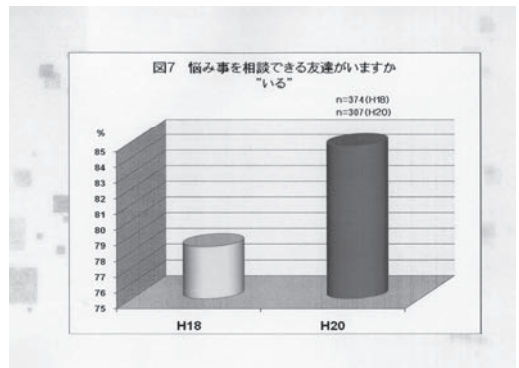
(26)



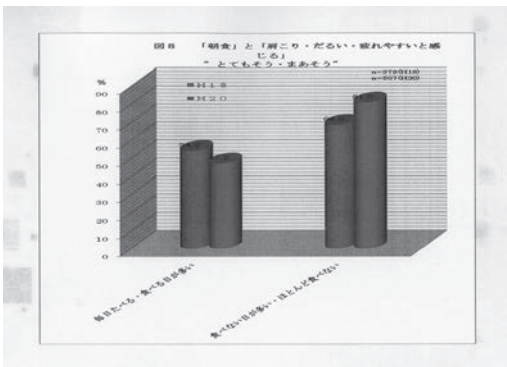
(27)



(28)



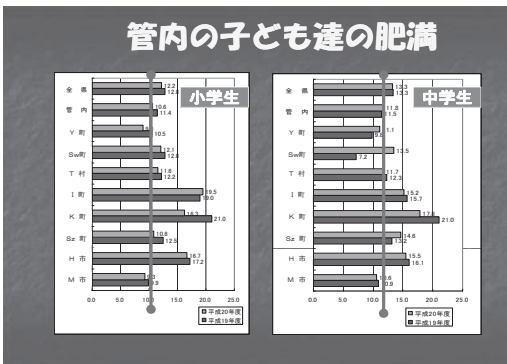
(29)



(30)



(31)



(32)



第26回岩手県学校保健・学校医大会で発表（平成22年1月17日(日)）

当院におけるこの1年間の病原性大腸菌による胃腸炎の発生について

岩手県小児科医会
雫石町 上原 充郎

日常診療の中で下痢、嘔吐、発熱など病原性大腸菌感染による胃腸炎と考えられる症状を訴えて来院する患者は相当数いる。平成21年の1年間に当院で病原性大腸菌、カンピロバクターの検出のため207名分の便培養をしたところ、170名の便の中にこれ等を検出できた。菌検出率は82%であり、この検査を実施した臨床検査機関の菌検出率の2倍以上であることがわかった。

本来、病原性大腸菌は動物の消化管の中にいて便中の排泄されるものである。それが人間の便の中から検出されるということは動物の便と人間の口とが何らかの関係でつながっていると考えられる。

そして、このように多く検出されるということはこの不衛生なことが日常的に行われていると考えられる。

■ ■ ■ ■ ■ 会員の入会・退会・異動等 ■ ■ ■ ■ ■

【入会】

入会月日	所属施設名	氏名	年齢	区分	備考
10月1日	あずみのクリニック	高橋和人			

【異動】

退会月日	所属施設名	氏名	異動の内容	
			異動区分	異動後の施設名
12月31日	坂井医院	坂井博毅	閉院	自宅会員に
1月1日	西根病院	嶋信	退職	自宅会員に

【退会】

退会月日	所属施設名	氏名	備考
6月30日		松井勝範	退職（盛岡市医師会へ）
7月31日		遠藤哲夫	閉院（花巻市医師会へ）
7月31日	県立沼宮内病院	宮本勇二	退職（八戸市へ）
8月26日	東八幡平病院	玉川芳春	死亡退職

みんなの いわてを
医協

ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料
等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から
各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険
事務代行業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル 0120-054-222

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyoku>

E-mail isikyoku@rose.ocn.ne.jp



編 集 後 記

桜の開花をまだかまだかと待っている今日この頃です。さて、またまた郡医報発行が遅くなりました。そして今年度2回の発行でした。本当に申し訳ありません。

さて昨年は新型インフルエンザに振り回されました。大勢の子どもたちが感染し、たくさんの人にワクチン接種しました。しかしワクチン接種が後手後手にまわったことは確かです、流行を抑えることができず、重症で入院加療した児もいて、心を痛めました。また新型プリウスの発売そして欠陥でTOYOTAさんも大変でした。新型に振り回された2009年でした。

郡医報づくりのお手伝いをして8年になりました。原稿のお願いを快くお引き受けくださった会員の先生方、いつも表紙を飾る絵をご提供くださった高橋孝先生、岩手山の写真を撮ってくださった森先生、ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。またいつも不手際ばかりで申し訳ありませんでした。会員の皆様にこの場をお借りしてお詫び申し上げます。新年度は原稿を提供する側にまわりたいかな？

(山口淑子)

岩手郡医報：No.93／2010年3月発行
発 行：社団法人 岩手郡医師会
発行責任者：岩手郡医師会会長 及 川 忠 人
事 務 局：〒028-7303 八幡平市柏台二丁目8番2号東八幡平病院内
TEL 0195-78-2607 FAX 0195-78-2555
<http://www.iwatgun-med.or.jp>
制 作：社団法人 岩手郡医師会広報部